

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104617		
法人名	有限会社 東雲		
事業所名	有限会社 東雲 グループホームつつじが丘しのため		
所在地	長崎市つつじが丘4-15-1		
自己評価作成日	令和2年11月6日	評価結果市町村受理日	令和3年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の中にあり、利用者の立場に立って考え、安心して楽しい生活ができるようにまた、生活環境を整えることで事故防止に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念「利用者の人権と歩まれた人生の尊重」と理念の思い「認知症であっても可能な限り自分を表現できる場を作りたい」の具現化に日々、取り組んでいる。生活歴からアメリカに暮らしていた利用者は英語の映画鑑賞を支援に取り入れている。「自分の居場所」を持てるように新聞購読や愛読書、家事仕事など在宅時代の楽しみや役割を継続し支援している。また、認知症への理解を深め、夕食を食べていないと訴える利用者には毎回新たに用意し、外出の希望に応え、数日おきに短時間でも全員一人ずつ散歩に出掛け気分転換を図るなど本人の思いを否定しない支援があり、利用者のその時の気持ちに寄り添っている。管理者は職員の労働軽減や連続有給休暇の取得など働きやすい職場環境整備に努め、職員と信頼関係を構築している。利用者を見守る職員の目は優しく、利用者が穏やかに暮らしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を唱和し理念を共有し入居者の思いに沿えるように努力しています。	毎朝申し送りで理念を唱和し、職員の意識を高めている。理念にある「人権と歩まれた人生の尊重」に沿い、本人の意向を汲み取りこれまでの暮らしの継続を支援している。また、職員が笑顔で寄り添い、家事仕事など自立を見守りながら家庭的な環境を築き、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションの掃除、散歩時のあいさつ、会話、災害時の近所の方の受け入れ。	新型コロナ禍により今年中止となっているが、毎年地区の祭りに協賛している。職員による地区のゴミステーションの掃除や散歩時の挨拶の他、地元ガス店から広告紙で作ったゴミ箱を頂くなど、日常的に交流がある。今年9月の台風時は一人暮らしの近隣住民を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば答えるつもり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かすようにしている。	新型コロナ禍のため昨年度第6回を中止し、今年度第1回より書面会議で対応している。運営推進委員に活動報告書を配付した後、質問や感想を会議録にまとめ、市へ提出している。消防訓練に関する意見から、事業所の住所や電話番号を大きく分かるように掲示するなど改善事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば相談するようにしている。	市担当職員が定期的に訪問し、行政から案内がある研修等に職員が参加している。今年9月新型コロナ禍による介護サービス事業所職員に対する慰労金申請を行っている。また、日頃から不明な点は問い合わせしており、サービスの取組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で知識を深めている。身体拘束をしないケアに努めている。	新型コロナ禍のため今年度第1回より身体拘束等適正化委員会を、運営推進会議との併用から月1回の職員会議内開催へと変更している。職員は年2回内部研修において、身体拘束をしないケアについて理解を深めている他、スピーチロックは都度注意し合っている。日中の施錠は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で知識を深めている。防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している利用者がいないため学ぶ機会をもっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から入居前に説明をし誤解のないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から意見や要望に答えられるよう努めている。職員会議や業務日誌等で内容を理解運営に反映させている。	苦情相談窓口は明文化し、利用開始時に説明している。家族の要望は面会時に聞くことが多く、職員は話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。新型コロナ禍で面会が出来ないときは、写真を送付したり利用者の状態を電話で伝え、意見の抽出に努めている。家族の要望や意見は個人記録へ記載し、支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役員が介護業務に従事しておりまた、月に一度の職員会議で意志の疎通をしている。	職員は毎月の会議や日々の業務の中で、意見要望を伝えている。管理者と職員の関係性は良好で、気軽に相談や要望を伝えている。また、管理者は気になる職員に個人面談を実施したり、勤務希望に応じ、年末年始の勤務軽減や連続有給休暇取得など働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	調理が主な仕事とする職員を採用し、負担が軽減し業務の効率、水準が大きく向上した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人員数に余裕があるときは、外部研修に参加させている。また、年に数回社内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いくつかの事業主と情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を職員に伝え、入居後のコミュニケーションで関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族と面談し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員として一人の人間、先輩として接し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支えていくように努めます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやり取りを行っている。	面会には家族の他、親戚や友人、自宅近所の知人などが訪れている。教会の神父や牧師、寺の信徒の訪問もある。職員は利用者の生活歴を把握し、新聞の購読やカラオケなど習慣や趣味の継続の支援に努めている。外国暮らしの経験のある利用者は海外映画を鑑賞している。家族と墓参りや葬式、結婚式に出掛ける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置を工夫し孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者の家族からの相談に応じた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、表情から訴えを把握するように努め、職員同士で共有し対応している。	職員は毎日、利用者1対1の時間をもち、思いや意向を汲み取っている。表出困難な利用者は表情や仕草の他、家族へ聞き判断している。聞き取った思いや意向は、記録や口頭で職員は共有し、支援や介護計画へ繋げている。利用者同士が居室を訪問しあうなど自由な暮らしが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報、入所後のアセスメント、個人記録に目を通し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の状態を把握し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回モニタリングを行い意見を出し合い、介護計画を行っている。	利用開始から1ヶ月の暫定プランを立てている。計画作成担当者が、計画更新前日にフロアに用紙を貼り全職員が利用者の変化等を書き出している他、主治医の意見を取り入れ計画を作成している。面会時や電話で家族の要望は得ている。ただし、介護計画に沿った記録内容において、モニタリングとの繋がりが十分ではない。	モニタリングの際に計画に沿った支援の確認ができるよう工夫を図り、次の計画に繋がることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるよう努めているができないこともあると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の美容院を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関に主治医をかえてもらう。	全員が協力医をかかりつけ医としており、毎週往診を受け、常勤の看護師が健康状態を確認している。他科受診は家族同行が基本であるが、職員も対応し、受診結果は双方とも報告を行っている。現在、歯科は通院している他、主治医の指示で訪問看護を利用するなど、状況に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在、コロナでできないが面会に行き看護師、相談員から情報を収集できる関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族、医師と話し合っている。	重度化した場合の指針を、利用開始時に家族へ説明し同意を得ている。過去に、最終的に家族の意向が変更した事例もあることから、随時話し合いの場を設け、医師を交えた意向の再聴取や説明により、家族の同意を得て支援に取り組んでいる。職員間でも知識の共有を図りながら、看取りの実例を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルにそって実践する。管理者、看護師の指示に従う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に訓練を行っている。	毎月の消防訓練では搬送方法の実践等、様々な訓練内容が確認できる。総合訓練は年2回、夜間想定で実施し、内1回は地震による火災発生とし、消防署、防災設備会社、民生委員が立会っている。非常持ち出し品や備蓄の整備もある。自然災害については、研修等実施しているが、独自のマニュアル整備や職員への周知が十分ではない。	今後の更なる自然災害対策として、独自のマニュアルを整備し、全職員への周知徹底に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた言葉かけ、居室に入るときはノックをするなど努めている。	職員は利用者には苗字にさん付けで呼び掛ける他、入室時はノックや声掛けしてしている。入浴や排泄支援時は、羞恥心に配慮するなど利用者を人生の先輩とし、人格を尊重した支援を心掛けている。個人情報の取扱いは契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出し、理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いしないようにしており、また努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備で本人に服を選んでもらったり、ズボンのゴムがゆるなったりきつくなったり調整している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をとり後片付けを手伝ってもらっている。	献立は職員が利用者の希望を取り入れ作成し、季節の食材を用い、食べやすい形状で専任の職員が調理している。利用者は片付けなどを手伝っている。季節の行事食や敬老会のタケノコご飯、誕生日は職員手作りのバースデーケーキで祝っている。職員も一緒に食する食事の時間は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な人には、エンシュア、野菜ジュースなどを飲んでもらうなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできない方には介助ししない人には声をかける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。	職員は排泄チェック表を基に、利用者のその日の排泄リズムを把握、共有し、声掛けや誘導、排泄介助支援を行っている。日中はトイレでの座位排泄を基本とし、また、毎月、利用者の排泄状況に合ったパッド類や支援方法を検討するなど排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便をうながすため食事、運動など個々に応じ取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行っている。	入浴は夏場は週3回、冬場は週2回を基本とし、全利用者の確実な入浴回数の確保を記録から確認できる。車椅子の利用者もリフト浴で湯に浸り喜んでいる。管理者手作りの浴槽の深さ調節のすので安全な入浴や同性介助に対応し、季節のゆず湯など楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けておりそれ以外でも昼夜逆転しない範囲で休んでもらうことがある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から薬の効能の説明をうけ努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、片付け、散歩など支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそうことは、利用者の重度化、人手不足で難しい。	全員での外出は利用者の状態で困難であるが、個別に季節の花見や病院受診帰りの買い物やカフェへ好物のパフェを食べに職員と出掛けている。また、気分転換に2、3日置きに時間をずらしながら、車椅子の利用者も全員マンツーマンで散歩へ出掛けるなど外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はなくなってもよいとの条件で一人3000円ほどもたせてよいことにしているが、お金のことを気にする利用者はいない。それだけ、認知症がすすんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾り、四季を感じさせるカレンダーを共用スペース準備している。	リビングは採光良く、天井の吹き抜けを介し2階と空間を共有し、一体感がある。利用者はテーブルやソファに集い、映画やカラオケ、家事仕事など楽しみと役割を持って過ごしている様子が窺える。毎月カレンダーの日付を利用者が貼り替えている他、玄関に生花を飾り季節感を取り入れている。職員は清掃や換気等環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになるスペースが居室しかないので気の合った利用者同士で思いおもいに過ごせるよう席の配置に気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物、写真を飾っている人もいる。	居室は1階と2階にあり、利用者はエレベーターで自由に移動できる。使い慣れた家具や寝具、家族の写真や位牌、愛読書等を持ち込み、これまでの暮らしを継続する様子が窺え、本人が落ち着く居室になっている。インターホンの設備があり、日常的に利用している。職員は清掃や寝具の管理など清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレに手すりを取り付け、ベッドの位置、高さを調整するなどして工夫している。		